



—教えて！デバガメ先生—
第1回 冬虫夏草の話



「フユムシナツクサ」と書いて「トウチュウカソウ」と読みます。その字のとおり冬の間は虫で、夏になると草に変わる生物のことを呼んだものです。虫とは、蛾のサナギであったり、蟬の幼虫だったり、カメムシや蟻、蜂などいろいろな種類があります。それらの虫が、あるとき草に変わります。草といっても、キノコの種類、子嚢（しのう）菌類バツカク菌目バツカク菌科の菌が虫に寄生して身体じゅうに菌核をつくり、やがて体を突き破って、キノコを出します。ここから胞子を出して、またほかの虫に寄生するのです。幼虫や成虫の身体からニュキニュキと出てきた奇怪な形をしたキノコを見ると、

まるでSF映画の世界。「風の谷のナウシカ」というアニメで出てくる王蟲から胞子が出てくる様子は、この冬虫夏草からヒントを得たものでしょう。どこで見られるかという点、ブナやナラの自然林の林床で、落ち葉や土の上などです。小さいのでよほど目を凝らさないと見つけることはできません。朽木からおかしなキノコが出ていることもあります。ていねいに掘ると、蛹からでてくるキノコだったりします。クモやトンボにもつく冬虫夏草があります。その不思議な姿を一目見れば、あなたも冬虫夏草の虜。この秋、林床をじっくり観察しませんか。（勇）

■会員お薦めの本

「コウモリのふしぎ—逆さまなのにもワケがある—」技術評論社 1,580 円／コウモリのイロハから生態、分類まで、とにかく詳しい。それもそのはず、昨年コウモリフェスタでお世話になった福井大氏、三笠暁子氏などそうそうたる執筆陣。20年ほど前売れたハラルト・シュテンプケの「鼻行類」はひょっとして、コウモリを参考にしてたりして…。(勇)

「幻のカエルーがけに卵をうむタゴガエル」ドキュメント地球のなかまたち／タゴガエルの声を聞いたことがあります。なんだか不思議なカエルだと思いましたが、この本を読んで「タゴガエルは凄いカエルだ」とますます魅力を感じました。子ども向けに書かれていますが、中味は濃いです。（潤）

「シルバーウィング 銀翼のコウモリ I」ケネス・オッペル著 嶋田水子訳 小学館 1,680 円／コウモリの子どもが主役でハリーポッターのようにドキドキワクワクします。冒険物語かな。続きも発刊されるとか。コウモリや動物たちの生態もなかなかよく調べてあると、コウモリの会でも好評です。（潤）

◆◆◆ 学ぶ会のあゆみ ◆◆◆

(ゴシックは発行物)

- 2001 5/12 設立
 7/14 第1回ホテルと星空観察会(参加者50名/恒例行事)
 11/23~24 ネイチャーガイド研修受講
- 2002 1/20 第1回水鳥観察会(参加者6名/恒例行事)
 2~3月 ブナ林伐採反対署名活動(町民1,000名余りの署名集める)
 2/18 福島県の河川整備計画に意見書提出
 2/24 河野昭一京大名誉教授のブナ林に関する講演会開催(参加者100名)
 5/12 第1回バードウォッチング(参加者35名/恒例行事)
 6/10 河野先生のブナ林学術調査協力(以後継続)
 7/31 黒谷川下流域の水辺林保全呼びかけ(南会津建設事務所と共同で伐採現場でチラシ配布)
 11/12 鈴木和次郎さん(現・顧問)と水辺林研修会
 11/31~12/1 南東北「川」ワークショップ参加・「柳のささやきで賞」受賞
- 2003 4/27 浅草岳・沼の平クロカンツアー参加
 5/24 水辺林シンポジウム「川の宝ものってなあに？」開催(参加者80名)
 5/25 「水辺探検隊in黒谷川」(観察会/参加者15名)
 7/5 「コカ・コーラ環境教育賞」受賞
 8/22~23 和次郎さんの水辺林調査協力(伊南川でユビソヤナギ発見される)
 9/16~17 自然体験活動ガイドライン策定のための研修会
 10/18 巨樹巨木めぐり
- 2004 2/14~15 只見ふるさとの雪まつり「ゆきんこ市」出店
「水辺林の大切な役割・ブナの森はなぜ大切？」(チラシ)配布
 4月 「只見地域における自然体験活動ガイドライン」(リーフレット)策定・発行
 4/13 和次郎さんによりユビソヤナギ開花確
 5月 水辺林シンポジウム報告書「水辺林の大切なはたらき」(リーフレット)発行
 5/5 向山満先生のコウモリ調査協力(以降継続)
 5/9 第1回春の草花観察会(恒例行事)
 5/13 救急救命講習受講
 6/11~12 「第13回溪畔林研究会シンポジウム」共催
 6/13 水の郷サミット・プレイベント「森と水辺のシンポジウム」開催協力
 6/27 ユビソヤナギ観察会(以後継続)
 10/17 浅草岳・沼の平ブナ林観察会
- 2005 4/20 「福島県只見町の水辺林」(冊子)と「奥会津只見町の水辺林MAP」(リーフレット)発行
 7.2~3 「世界ブナ・サミット2005in只見」開催協力
- 2006 3.18 ユビソヤナギ全木調査開始
 6.11 浅草岳・山神杉周辺ブナ林観察会
 6.17~18 ユビソヤナギ研修旅行(みなかみ町・湯檜曾の阿部利夫氏を訪問、案内していただく)
 7.16~9.15 コウモリ展「不思議いっぱい!コウモリの世界」共催
 8.26~27 「コウモリフェスティバル2006inただみ」共催
 9.3 蒲生岳登山(新道)
 9.9 田子倉湖奥・ユビソヤナギ調査参加
- 2007 3.11 南郷・月田農園訪問(クロカン)
 5.26 ユビソヤナギ2,000本目カウント
 6.16 「ユビソヤナギ交流会」開催(阿部利夫氏、鈴木和次郎氏、菊地賢氏他20名参加)

●**アマツバメ** (’07.7.9) /夕方、久々に散歩したら、只見川上空にアマツバメ。30羽くらいが乱舞。双眼鏡がなかったのでわからないけどハリオアマツバメも混じっていたかも。鎌のような翼が印象的。赤とんぼを食べに山からおりてくるのです。今の時期、ツバメらしきものを見たらアマツバメを疑いましょう。(勇)

●**ユビソ調査続行** (’07.6.24) /水遊びの気持ち良い季節で一す。叶津川左岸、浅草登山口付近の対岸もようやく川を渡れるようになり、ユビソ調査続行することができました。砂防から上流の登山口あたりまで、2029本～2085本(午後1時30分～4時30分)。太めのがかなり密集しており、ルンルン気分が進んでいったら、だんだんアシやあざみのとげに行くて阻まれ、藤つるに巻きつかれるユビソも多く、なんとなくジャングル地帯。気が重くなり始めたら運よく？雨が降り出し、終了。(和)

● (’07.5.28) 5月26日(土)南郷・山口の伊南川でユビソヤナギ全木調査、**ついに 2000 本**を超えました～！No.2014 まで来ました。もう雌花まで落ち切ったし、藪がひどくなってきたし、中洲には流量が多くて入れないし、南郷は和次郎さんが言う通りのユビソ空白地帯で、飛び飛びに少しだけあるため移動の大変さに対する見返りが少なく、きつつい…とりあえず終わり！ということで、まとめに入ります。(聖)

● (’07.5.22) 19日(土)、山形県鶴岡市朝日地区(旧朝日村)、**大鳥川のユビソヤナギ**を見てきました。…あいにくの土砂降り、…ダム湖に水没しているヤナギ群落の写真を撮るために車を降りたら、あら、そこに！ありましたよ、ユビソヤナギ。湯桧曾のユビソに見た目も生育環境も似ているなあ、というのが和子さんと聖子の感想。只見で言えば、田子倉湖の上みたいな環境。和次郎さんが最初、実川(檜枝岐村七入から上流の伊南川)でユビソを探して見つからなかったのに、只見の伊南川みたいな所であって驚いた、と言っていた意味が体で分かりました。やはり、特殊なんですねえ、ここのユビソは。全

国的には特殊なのに、ここでは普通。すごい。(聖)

● (’07.5.6) 南相馬市博物館の稲葉氏来町。カワヤツメ、ヨコハマシジラガイ、ユビナガコウモリ sp 採取。今回は**マツカサガイも新発見**。みんな絶滅危惧種です。そして、今回またまた新発見!! **カワゴケとカワモズクを確認**。どちらも絶滅危惧種I類。水路で見つけたチョー珍種。正確な種類が確定しだいプレスリリースします。日本では絶滅危惧種でも只見では普通種。これが只見の自然の底力です。(勇)

●**和次郎さんの本** (’07.3.21) 鈴木和次郎さんが編集された本が出版されました。題して『**主張する森林施業論**』 定価：2,857円(税込3,000円)。高くてもむずかしそうな本ですが、和次郎さんが何年も力を入れて編集した本です。歯ごたえは充分ありそうです。/集水域管理(鈴木和次郎)ほか、水辺林の保全・再生、森林生態系の保全、絶滅危惧の希少樹種とその保全 など興味を引く内容もあります。(勇)

● (’07.3.3) 今月発行の岳人の別冊春山に**只見のブナ林のすばらしい写真**がのっています。撮影は森林写真の第一人者石橋睦美氏。実は昨年案内したのですが、こんな所がまだ日本に残っていたのかと大層感動されて撮影したものです。/もう一冊は文一総合出版のバーダー3月号。この中のバードトラッキングという野鳥の写生画のコーナーに**只見産のアカショウビン**がのっています。これは和子さんがもらったのを(もちろん死体ですが)提供し、描いたものです。イラストはこれまたこの世界の巨匠、赤勘兵衛氏。精緻で多彩なイラストを堪能してください。(勇)

●**オジロワシ出現!** (’07.1.14) 本日、只見湖のカモカウントで、オジロワシ出現! 頭上を大きく旋回、キンクロハジロを襲う場面も見られた(失敗しましたが)。こちらを気遣う様子もなく、1時間あまりたつぷりと観察できました。途中、杉と松の木の梢で休んだり、湖上を何回も飛び回るなどの出血大サービス! 尻尾が純白ではなかったことから若鳥だと思います。こんな機会はめったありません! …幸運に感謝! (勇)

■活動報告

***ユビソヤナギ交流会 (6/16) / (MLより) 16日 (土) に開催したユビソヤナギ交流会の報告です。午前中の現地見学会には、元祖・湯檜曾からの豪華ゲスト阿部さんと会員等9人、計10人が参加。只見地区センターから伊南川筋を遡り、黒谷川へ。その後伊南川に戻り、亀岡橋から下流へ。阿部さんと只見でユビソ見物&談義、という昨年からの念願が叶い、感激です！**
午後の発表会には19人が参加。福島民報・民友の記者も来ていました。和子&聖子が只見川流域について、阿部さんが元祖・湯檜曾周辺について、和次郎さんと菊地さんが全国の最新情報を発表。いろんな意味で勉強になりました。
(聖)

***平成19年度総会 (6/30) / 旅行村バーベキューハウスで開催 (内容は総会資料を参照)。終了後、懇親会。**

***例会 (7/10) / 民宿ふるさとで。情報通信紙発行と、HPリニューアル他、今後の活動について話し合いました。**

***コウモリ仮装 / (MLより) 9月6日、只見豊年フェスタでコウモリ仮装して踊って来ました。言い出しっぺの恵子、和子に、彰、勇、朝広、聖子の6人参加。最初恥ずかしがっていた勇さんが誰よりもノリノリで、来年の算段を。酔って調子に乗った我々は「月田農園でビオト**

ープづくり合宿したいぞ〜！」と盛り上がり、勢いに任せて禮次郎さんに電話。10月最初の週末あたりでやる方向です。(聖)

昨年のコウモリフェスタで作ったお揃いのコウモリTシャツに、手作りした黒マルチの翼とお面で参加しました。

***巨木観察会 (9/15) / (MLより) 勇、和子、古川、かな、坪田、孝之、聖子の7人参加。巡った巨木は、館ノ川のサワグルミ、小川のケンポナシ (写真/撮影・孝之)、熊倉のキタコブシ、大倉・八王子神社の大スギ、小林・大畑沢のオオウラジロノキ、大倉・比良林のサラサドウダン。その合間に山野草・キノコ観察、カエル撮影会など盛りだくさん。(聖)**

小川のケンポナシは、今のところ只見一です。只見では「テコゴノキ」といって実を食べました。冬、雪のうえに落ちた黒い異様な形をした果実は、ほんのり甘いのです。お試しあれ。
(勇)



■今後の活動予定

- *10月/月田農園合宿・勉強会 (ファン倶楽部結成！)
- *ユビソヤナギ全木調査継続・報告書作成
- *ガイドライン増刷
- *町内ホテルマップ作成
- *08.1月/水鳥観察会
- * 2月/雪遊び&鍋
- * 3月/ユビソヤナギ観察会 (開花に合せ)
- * 5月/バードウォッチング・草花観察会



■題字/本多 見行

■イラスト/新国 勇

——カジカガエル (只見ではカービッキという)

■トピックス

- *ユビソヤナギ全木調査再開。まずは伊南・古町の中州から。9/22現在2,312本。
- *10月13日 (土) AM10:00~12:00、只見地区センターで鈴木和次郎さんの講義「多雪地の森林植生と立地環境」があります。「只見町公認自然ガイド・インストラクター養成講座」として行なわれるものですが、誰でも聴講することができます。

■編集室から/お待たせしました、やっと創刊。まずは季刊ペースでお届けできるように頑張ります。ご意見、ご感想をお寄せください。記事、情報も募集しています。(楓)